２０１１年（平成２３）１０月

カルメル 霊性センターニュース

2011年10月　　269号

目次

特集

教皇ベネディクト十六世の 257 回目の一般謁見演説 ・１

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・２４

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

年間購読のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・５０

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５１

特　集

教皇ベネディクト十六世の257回目の一般謁見演説

2011年 2月2日（水）午前10時30分から、パウロ六世ホールで、教皇ベネディクト十六世の257回目の一般謁見が行われました。

この謁見の中で、教皇は、「教会博士」に関する新しい連続講話を開始し、その第1回として、「アビラの聖テレサ」について解説しました。以下はその全訳です（原文イタリア語）。

（カトリック中央協議会　司教協議会秘書室研究企画訳）（2011.2.3）

※ 霊性センターニュース１０月号～１２月号にて連載致します。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。

教父と、中世の偉大な神学者と女性を取り上げたこれまでの連続講話で、わたしは、その優れた教えのゆえに教会博士と宣言された幾人かの聖人と聖女についても考察することができました。今日から、わたしはこの教会博士の解説を完成させるためにささやかな連続講話を始めたいと思います。すべての時代のキリスト教霊性の頂点を代表する聖人である、アビラの（イエスの）聖テレサ（Teresa de Avila 1515－1582年）から始めます。

アビラのテレサは 1515 年、スペインのアビラで生まれました。本名はテレサ・デ・アウマダ（Teresa de Ahumada）です。 彼女は自叙伝の中で幼年時代のいくつかの出来事に言及しています。テレサは「神を畏れ、徳に満ちた両親」から、9 人兄弟と 3 人姉妹の大家族の一人として生まれました。9 歳にもならない幼いときからすでに幾人かの殉教者の伝記を読むことができました。殉教者の伝記は彼女に殉教への望みを抱かせました。そこで彼女は殉教者として死んで天国に行くために家を出ることまで考えました（『自叙伝』：Libro de la vida 1, 4 参照）。

幼いテレサは両親にいいました。「わたしは神を見たいのです」。数年後、テレサは幼いときの読書について語っています。そして自分は真理を見いだしたと述べます。この真理を彼女は二つの原理に要約しました。第一は、「この世に属するものはすべて過ぎ去ること」、第二は、神のみが「永遠に、永遠に、永遠に」存在することです。このテーマは次の有名な詩の中で述べられます。

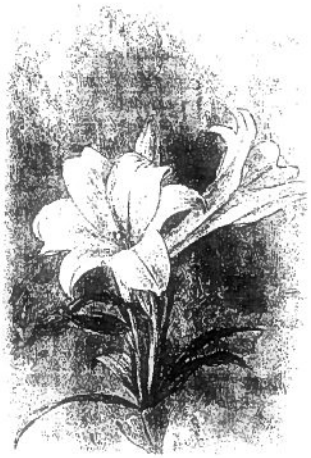
「なにものにも乱されるな
なにものにも驚くな
すべては過ぎ去るが
神は変わらない
忍耐が
すべてに至る道
神を体験している人は
なにも欠くことがない
神のみで満ち足りる」
（『詩』：Poesias 9〔『アビラの聖女テレサの詩』高橋テレサ訳、聖母の騎士社、1992 年、51 頁〕）。

テレサは 12 歳で母を失い、至聖なるおとめに自分の母となってくれるよう願いました（『自叙伝』：Libro de la vida 1, 7 参照）。

青年時代のテレサは世俗的な書物を読んでこの世の生活に心を奪われました。しかし、アビラのアウグスティヌス女子修道会のサンタ・マリア・デ・グラシア修道院の付属学院寮の学生として過ごし、霊的書物、とくにフランシスコ会の霊性の古典を読んだことにより、精神の集中と祈りを学びました。20 歳のとき、アビラのエンカルナシオン修道院に入りました。修道生活を始めたテレサは、イエスのテレサの修道名を名乗りました。3 年後、重い病にかかり、4 日間の間、昏睡状態に陥り、ほとんど死んだかのように思われました（『自叙伝』：Libro de la vida 5, 9 参照）。聖女は、自分の病との戦いは、弱さと神の呼びかけにあらがう心との戦いでもあると認めます。テレサはいいます。「わたしは生きたかったのです。わたしは生きていたのではなく、つねに死の影と戦っていたのでした。わたしにいのちを与えてくれる人はいませんでしたし、自分からいのちを得ることもできませんでした。唯一わたしにいのちをお与えくだされるかたは、わたしを助けにきてくださいませんでした。それは当然のことです。幾度となくわたしを連れ戻しにいらしてくださったのに、わたしはその度にそのかたを捨てたのですから」（『自叙伝』：Libro de la vida 8, 12〔『神の憐れみの人生』高橋テレサ訳、聖母の騎士社、2006 年、上、128 頁〕）。1543 年、テレサは肉親を失いました。父親が死に、兄弟も次々とアメリカに移住したからです。1554 年の四旬節、39 歳のとき、テレサの自分の弱さとの戦いは頂点に達しました。たまたま「傷にまみれたキリスト」の像を見いだしたことが、彼女の生涯に深い刻印を残すことになります（『自叙伝』：Libro de la vida 9 参照）。

当時、聖アウグスティヌス（Augustinus 354－430 年）の『告白』（Confessiones）に深い親しみを感じていた聖女は、自らの神秘体験にとって決定的な瞬間をこう書き記します。「突然神の存在がわたしに迫ってきて、神がわたしのうちにおいでになる、またはわたしが神のうちに完全に沈められていることをまったく疑うことができませんでした」（『自叙伝』：Libro de la vida 10, 1〔高橋テレサ訳、上、138 頁〕）。（次号に続きます）

心 の 泉



DE　IMITATIONE　CHRISTI
キリストにならう　バルバロ訳

第一巻
第二十一章　心の痛悔

３　神の慰め

他人のいざこざを引き受けてはならない、また目上の問題に口をはさんではならない。何よりも自分自身を警戒しなさい。そして、あなたが愛している人に言うよりも、自分自身を叱責しなさい。他人の支持を得ないにしても、そのために悲しんではならない。むしろあなたの生活が、神のしもべとして、敬虔な修道者として、善良さと慎みとに欠けていることを心にとめなさい。この世でたくさんの慰め、特に感覚的な快楽を多くもたないことこそ、より安全で有益なことである。しかし私たちが内的な慰めをもたず、それをめったに感じないとすれば、それは私たち自身の責任である。それは痛悔の心を求めず、世俗の空しい慰めを捨て切れないからである。

４　ふさわしい苦しみ

あなたは、神の慰めを受けるに足りなく、むしろ多くの患難を受けなければならない人間であることを認めなさい。心の完全な痛悔に達することができた時、人はこの世すべてを重苦しく苦々しく感じるようになるであろう。徳のある人は、泣き、かつ嘆くに足りる理由をいつも見つけだす。自分を思い、隣人を思っても、この世では、患難のない人はいないと知るであろう。自分を厳しく反省すればするほど、悲しみ嘆く理由を見いだすのである。正しい苦しみと内的な痛悔の原因は、私たちの悪と罪とである。私たちはそれらに束縛されているために、天のことをごくまれにしか眺められないのである。

神と親しく生きるために
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父　ocd　　－１０－

＜修道院創立に向かう＞テレサの像

あなたのために生まれた私は
　あなたのもの
　　どうなさるおつもりですか

主よ、私は
　あなたのみ前におります、
　　やさしい愛よ

ここにごらんになる私の心を
　あなたのみ手の中に置きます

～テレサ～

１０月１５日はカルメル会改革者アビラの聖テレサの祝日です。バチカンの聖ペテロ大聖堂にはさまざまな修道会の創立者の像が立ち並んでいます。大きなバジリカの内部でも見劣りしない巨大なご像群、入口近くのテレサの像には「霊的なるものの母」と記されています。アビラの聖テレサは「私は神をみたい」と望むすべてのものにその道を示す母なのです。

「私たちがきっぱり決心して自分を神にささげるならば、必ず全能なる神の心を動かして、主は私たちをご自分に変化させてくださいます。」『完徳の道』。マリー・エウジェンヌ神父は、その著書『私は神をみたい』の中で神との一致に至るために、主の働きを誘導し、主が働かずにはいられないようにさせるには、「自分を与え、神に委ねる」ことの重要性を力説します。（修道者として奉献するということだけでなく）神との一致に至りたいものは日常生活のさまざまな出来事の中で「自分を与え、神に委ねる」こと。

聖テレサの祝日を前に、「霊的なるものの母」テレサの祈りを心に刻みたいものです。

あなたのために生まれた私は
あなたのもの　どうなさるおつもりですか・・・・
主よ、私はあなたのみ前におります、やさしい愛よ
ここにごらんになる私の心を　あなたのみ手の中に置きます

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

続「修道犬クロ」

九里（くのり）　彰

9 月上旬、ローマで拡大総長顧問会が開かれ、16 日の午後、名古屋の本部修道院へともどった。と、そこに一通の手紙が届いていた。

十勝修道院の院長様からのお便りであった。開封すると、何とあのクロが 8 月 29 日に亡くなったという知らせであった。その直後に届いた「霊性センターニュース 9 月号」の私の記事は、まるではなむけの言葉（？追悼の言葉）のようであったというのである。

「……　一カ月間程、ほとんど寝たきりで、姉妹たちの手厚い看護を受け、本当に最後まで、立派な修道犬の名にふさわしく、よく耐え忍び亡くなりました。本当に愛されるにやさしい、いい性格の犬でした」。

そしてクロからの言葉が添えられていた。

＜管区長様、本当にお世話になりました。クロ＞

7 月上旬行なわれた十勝での黙想会の後、名古屋にもどると、某修道士がクロのことを話してくれた。まだ小さい時のことであった。修道院から坂を下って行くと、左手に小学校があるのだが、彼が散歩に連れて行った時、クロは小学校の前まで来ると、ブルブル震えて立ちすくんだというのである。帰って姉妹にたずねたところ、その付近で拾われてきたとのこと。恐らく、そこで子供たちにいじめられていたのではないかというのであった。

私が散歩に連れて行った時は、そんなことはまったくなかった。何度、小学校の前を行き来したことか。小さい時のトラウマは、修道院で姉妹たちに優しく世話されている内にすっかり消えてしまったのであろう。

修道院を去る時、受付の姉妹はクロをわざわざ連れて来た。私が車に乗り込み、修道院を去るところを見せておかないと、後で寂しがるからということであった。何という配慮だろうと、思わず驚いた。

一期一会と言う。クロにとっても私にとっても、かけがえのない出会いと別れだったのだと、感慨深く思い返している。人との出会いも同じであろう。一日だけであっても、一週間だけであっても、一年だけであっても、私たちの間に心が通うならば、その人々は、生涯、私たちの同伴者となり、私たちを温かく支えてくれるのである。実に私たちが出会うそれらの人々や動物、そして植物さえも、皆、天の御父が私たちを励ますために遣わされているのではないだろうか。毎日、一切の存在、出来事の中に神の愛、神の優しさを感じ取ることができますように…　「クロ、天国でまた散歩に行こう」。

ヘンリ・ナーウェンの
旅路の糧（147）

イエスの自画像

イエスは、言います。「貧しい人々、柔和な人々、悲しむ人々、義に飢え渇く人々、憐れみ深い人々、心の清い人々、平和を実現する人々、義のために迫害される人々は、幸いである」（マタ 5:3-10）と。これらの言葉は、私たちにイエスの自画像を提供します。イエスは幸いな人です。そして幸いな人の顔は、貧しさ、柔和、悲しみ、義への飢えと渇き、憐れみ、心の清さ、平和を実現する望み、迫害のしるしを表しています。

福音の全メッセージとは、これです。すなわち、あなたたちはイエスのようになりなさいと。私たちは、彼の自画像を持っています。私たちが目の前にそれを保持するならば、私たちはイエスに従うとはどういうことか、彼のようになるとはどういうことかを直ちに学ぶことでしょう。

（0523）

イエスの心

イエスは、傷つきやすい子供。謙遜な説教者、軽蔑され、拒否され、十字架につけられたキリストです。けれどもイエスは、「見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。…御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています」（コロ 1:15、17）。イエスは、十字架上であざけられ、また天のエルサレムの王座から支配する王です。ろばに乗って町に入ってくる主であり、アルファでありオメガ、始めと終わりなのです。世からは呪われますが、神からは祝福されています。

絶えずイエスを見つめましょう。なぜなら、十字架につけられ栄光化されたイエスの心の内に、私たちは、彼の苦しみばかりでなく、その栄光にも与るよう呼ばれているのを見るからです。

（1223）

（九里　彰訳）

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（51）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

セゴヴィア（2）

彼がよく訪問した他の家族は、カリオンという姓の家族です。その家には一部始終を見ていたベルナルダとヘロニマという二人の小さな女の子がいました。後年、この二人は、メディナ・デル・カンポのドミニコ会の修道女となりました。彼女たちは、幼い時のことを細部まで覚えていたのです。ベルナルダ・カリオンはこう言っています。

「私は、跣足カルメル会の修道士であった、くだんの尊敬すべき十字架のヨハネ修父を存じあげていました。彼は、ごく普通に、私の両親であるヘロニモ・カリオンとフランシスカ・デ・ベラスコの家に出入りしておりました。というのも、両親はこの神の僕に対してとても大きな愛情と敬虔の念を抱いていましたから。彼らは困難の時や苦悩の時や病気の時に、ヨハネ修父の内に大きな慰めと助けを見出していたのです。なぜなら彼を見るだけで、彼らは健康と慰めを取り戻していましたから。また彼は聖人であったと私も思い、かつ確信しているように、彼のつつましい生活と振る舞いは、聖なる者となる見本を私たちに示していたからです。

くだんの神の僕が私の両親の家に来ていた日々の或る日のことです。両親は、とても献身的に、二三の貧しい召し使いたちの中から三人の子供を家に引き取り、食べさせ、他の必要なものを与えておりました。疱瘡やはしかにかかった病気の子供たちがベッドに寝ていたので、くだんの神の僕に大きな信頼と尊敬を抱いていた、私の母フランシスカ・デ・ベラスコは、彼が子供たちの健康を回復させてくれると思い、可哀そうな子供たちに会い、彼らにキリストの福音を教えてほしいと頼みました。母は彼と共に行き、少女であった私も子供たちのいる下の部屋に行きました。くだんの尊敬すべき神父は、彼らを見て、言いました。「ここは、主の飼い葉桶のようだ」。ひざまずきながら、尊敬すべき神父は彼らを祝福し、福音について話をしました。神父は彼らに教えながら、母と私は見たのですが、脱魂状態に入っていました。私たちがそれまで神父に抱いていた敬虔な思いをさらに越える思いが、私たちの心の中に湧きあがりました」。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊＊＊＊＊＊

年間第２７主日（A）

「これは跡取りだ。さあ、殺して、彼の相続財産を我々のものにしよう。」

マタイ　２１：３３－４３

今日の福音では、「ぶどう園をつくった地主がいました」。この地主は、もちろん、天の御父であり、創り主であり、宇宙の全てを秩序たてる方のイメージです。初めに神は天地を創造され、ご自分にかたどって人を創造されました（参照：創世記1－1，26)。神はまた最初の人間アダムに喜びの楽園であるエデンの園を耕し、管理するように命じられました。

しかし、原罪のときと同様に、小作人が犯した罪は、園の中、ぶどう園でおきました。小作人たちは、ぶどう園の収穫を召使いを介して受け取りたいと思った地主の命令に従いたくありませんでした。彼らは神に従うことを拒否して禁じられた果物を食べたアダムとエバのように振る舞いました。「神は（アダムに）言われた。『食べるなと命じた木から食べたのか？』」(創３：１１)。最悪の罪は園で起こります。このイメージは度々聖書の中で繰り返されます：原罪のとき；今回主が語られるたとえ話の中で；とりわけゲッセマネの園におけるイエスの逮捕とユダに裏切りにおいて。

アダムが罪を犯した後、彼と彼の妻はエデンの園から追放されました。「主なる神は、彼をエデンの園から追い出し、彼に、自分がそこから取られた土を耕させることにされた」(創３：２３)。それ故、もし罪に対する償いをしなければならないとすれば、それはエデンの園の外でなされなければならないでしょう。イエスが語られるたとえ話において、父に送られた息子、救い主のイメージである息子は、ぶどう園の外で殺されました。いったん死刑が宣告されると、イエスはぶどう園の外ではなく、むしろエルサレムの街の外に連れ出されました。そこでイエスは十字架に釘づけにされ、亡くなりました。死刑の宣告をした人々――当時のユダヤ人――は、物質的でこの世的な相続財産、いわば品物やお金に執着し、彼らのために永遠の生命という相続財産を持って来てくださった人間である神の御子を拒絶しました。

ぶどう園の主人は、イエスではなく御父です。御子の受難の後、御父はいつ戻られるのでしょうか？　実に、もうすでに戻られているのです；神の霊の新たな創造である聖霊降臨の間に！　御父である神は、御子の名において送られたその霊を通して、ご自分のために新しい民を得られました。新しい民、すなわち新しい神の民、今日新しいイスラエルを構成している養子、心による息子と娘です。聖霊降臨の日以来、イエスがたとえ話で言われたことは、完成しています。「季節ごとに収穫を納めるほかの小作人にそのぶどう園を貸し与えるでしょう」。神の民、新しいイスラエル！　これは教会です。これは、神の恵みにより、私たちです。主は私たちに収穫を生み出すように求めておられます。「だから、あなたがたに言う。神の国はあなたがたから取りあげられ、神の国の実を結ぶ民に与えられる」ものを私たちに求めておられます。この実はたくさんあります、しかし、主が特に重んじるもの、最上のものは愛です！「私は新しいおきてをあなたたちに与えよう。互いに愛し合いなさい」。

(*Sr. Paulina*)

「友よどうして礼服を着ないでここに入って来たのか」（ﾏﾀｲ 22,12）。

このたとえ話は、大きく二つの部分に分かたれます。前半では、王子のために盛大な婚宴を整えた王が、あらかじめ招いておいた人々を迎えにやります。その人々は、自分たちは王に誠実であると自負しているのですが、この決定的なときに、目先の正当と思える仕事を優先して王の招きを無視しました。それで、王は、それまでは招きの対象ではなかった人々をも含め、町の大通りで見かけた人を誰でも婚宴に連れてくるように、と命じます。すぐに分かるように、ここは、天の国の福音を告げるイエスの招きに応じなかったユダヤ人たちに向けられた、皮肉な調子さえも秘めた部分です。王子のための婚宴は、王以外の誰の権威を持っても計画することも、準備することも、ましてや、招きを送る、あるいはその時刻を決定することはできません。それは、王のみが無償の愛の内に主導権を取って決められることです。招かれた人に残されていることは、この招きを喜びの内に受け入れ、王の寛大さに感謝する、迅速、かつ王の配慮を思いやることです、そして、招かれた人が王子の婚宴に受け入れられるか、どうかは、この一点だけに掛かっています。実は、王子のために王が催す婚宴で示唆されるのは、子羊の婚宴　終末のときの神の救いの計画の成就、別の言い方をすれば、キリスト再臨のときです。イエスは、ご自分の福音宣教において、この再臨のときが先取りされている、と強調されていました。神が、自発的に主導権を取る無償の招きをまえにして、人間に残されているのは、迅速に応答することです。

キリストの再臨が喚起する、「裁き」の要因は、後半で中心的主題となっています。マタイがこの福音を文字にした時期、イエスの宣教を受け入れた人たちの大きな関心事は、もはやキリスト者とユダヤ人たちとの間を区別する裁きではなく、自分たちキリスト者の群れの中に起こる裁きに移っていました。「友よ、どうして礼服を着ないでここに入って来たのか」。この礼服とは、何を指しているのでしょうか。古くから多くの説明があります。ここでは、一つだけあげておきます。神の無償な愛の招きへの応答は、それが真実で真剣なものであるなら、その人の心に、その愛への感謝とその愛の喜びに倣おうとする意欲を掻き立てるはずですし、模倣しようとする無償の隣人への奉仕に、早かれ遅かれ、必ず表現されるはずです。この意欲が礼服なのでしょう。わたしたちは、この礼服着ているのでしょうか。ルカ　渡辺幹夫

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊＊＊＊＊＊

年間第２９主日（A）

「『それでは、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。』
彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残して立ち去った。」　マタイ　22：15−22

教会は、キリストに従い、キリストの使命を担い、全世界の人々に天国への道を示しています。教会は常に人間の心を天的なこと、即ち**みことば**、神の御子、イエス・キリストに従っている全ての人に神が約束されている霊的現実に向けようとしています。神の名において教えている教会でも、日常の世界に直接触れる事柄にも関りがあります。教会はキリストに従い、主として霊的現実を扱いますが、皇帝に払う税金のような現世の事柄も扱います。

ユダヤ人たちがイエスに「皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか？」とたずねたとき、主はばかにされているのではありません。イエスは答えの中で、神への義務と皇帝への義務に同等に立脚しています。しかし、イエスはまず神、それから皇帝であると言われます。それは、皇帝は、創造主である神しだいだからです。イエスの教えははっきりしています：何も無視してはならない、現世的なことも霊的なことも。何故ならば、人間の体と魂のように、これらは両方いっしょになって全体を形作っているからです。人の体から魂を分ければ、人は死にます。同様に霊的なことと現世的なことを分ければ、人間はばらばらになり死にます。

ユダヤ人は、「先生、わたしたちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをもはばからない方であることを知っています。人々を分け隔てなさらないからです。」という言葉でイエスに話しかけ始めます。ここで彼らは自分たちの罠にかかってしまったのです。イエスが真理を教えていることを知っている、あるいは知っているふりをしていることで、ユダヤ人は応答できない答えで罠にかかってしまいます。イエスは真理であり、常に悪の征服者です！　キリストとキリストの教えに従い、教会は神であるこの真理を信じ、教会自身も悪の征服者です。

霊的律法への従順、現世の律法への従順！　これが本日の福音の要約です。これは、神の祝福された母であるマリアが地上での生涯の中で行ったことです。神の御子のご托身という最上の出来事の間でさえ、またとりわけ、マリアは従順と神の啓示に対する信仰を宣言しました。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ１：３８）。マリアは、霊においてイエスを身ごもったと同様に、体においてもイエスを身ごもりました。このように、霊的にも肉体的にもイエスと結びついて、マリアは永遠に霊的律法と現世の律法に従っているのです。　　(*Sr. Paulina*)

「律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。『先生、律法の掟の中で、どの掟が最も重要でしょうか』」（ﾏﾀｲ 22,35-36）

掟は、人間の独語、モノログではなく、主導権を取って無償、無前提で呼びかける神の言葉への人間の応答、つまり対話、ディアログの一つの極として存在するのではないでしょうか。旧約聖書の基礎的な掟、つまり、神とその民の根源的な掟、十戒も、「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」（出ｴｼﾞﾌﾟﾄ 20,2）、つまり、申命記が、「あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである」（申命記 7,6-8）と言っていると宣言される方への応答としてのみありうるのでではないでしょうか。いかなる資格も前提としないで、神の無償の愛のみが始めることができた好意に直面し、この神の行為に感謝と喜びをもって自分を開き、自分をゆだねる人たち、その行動規範が掟、神との、また隣人との関係を律するものとなり、ここに、神の民が誕生します。この民は、歴史の具体的な変遷、状況の中で、神との、また、人間、自然との関係のあるべき形を、神が御旨に従って、その力に信頼して、具現化してゆく使命を帯びています。掟とは、このような関係を作ってゆくように招く言葉であり、その神の言葉を通して神の力が、人間の中に働いて、このような関係を創造し続けて行けるのです。この神の無償の創造する働きは、イエス･キリストの出現によって頂点に達しました。「わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちへの愛を示されました」（ﾛｰﾏ 5,8）。この愛への信仰の決断、感謝の応答が、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、あなたの神である主を愛しなさい」との第一の掟になるのですし、第二の掟、「隣人を自分のように愛しなさい」は、第一の掟への応答が、真摯なもの、真剣なもの、真実なものであることを証しするのです。「神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです」（1 ﾖﾊﾈ 4,11）。第一の掟と第二の掟は、切り離されることは不可能です、第一の掟が第二の源泉であり、第二の掟の遵守は、第一の掟への誠実さの保証です。ルカ　渡辺幹夫

年 間 第 31 主 日 (A)

”あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。”(マタイ 23：1－12)

今日読まれる福音の中で、イエスは律法学者たちやファリサイ派の人々を咎めておられます。彼らがモーセをとおして与えられた真の神の掟をあまりにも形式的に実利的に解釈し教えていたからです。事実、彼らはもはやモーセの立法を教えず、その代わりに彼ら自身の法令を押しつけていました。それはモーセが人々に教えたものとは程遠い、律法学者たちやファリサイ派の人々が書き写した彼ら独自のものだったのです：”律法学者たちやファリサイ派の人々はモーセの座についている。”(マタイ 23：2)

イエスの叱責は彼らが神の民に宗教的な事柄を教えたからではなく、モーセが行ったように神の名によって教えるのではなく、彼らが、同じ人間である彼らの名において教えたことに及んでいます。確かにモーセは預言者でした、だからモーセは神の名によって話し、選ばれた神の民に、神ご自身が、霊的なまたは目に見える交わりのうちにモーセに告げて下さったことを伝えました。モーセは彼自身の名によって神の民を教え導いたことはなく、その生涯を通して神の掟を実行し神と共に生きた人です。モーセは、いつも真実に神の名によって話しました。モーセは預言者です、預言者は”言うだけで実行しない”(マタイ 23：3) 律法学者たちやファリサイ派の人々とは似ても似つかぬ人です。

神の人、神からの呼びかけを受け、神の民を教え導く任務を与えられた人は、神と神の民のために生きる人です。預言者として、その神の人は仲介者です；私たちは彼を神と人との”調停者”とも呼ぶことが出来ます。もちろん、神と人との調停者は唯お一人、キリスト（1テモテ 2：5）です。しかし人間の救い主は、全くの自由意志によって、その恩寵のうちに、その慈しみの満ち溢れる行動によって、前もって引き受けて下さったご自身の受難の苦しみと死者の中からの復活の栄光の実りである救いの福音を、この世の終わりまで、世界の隅々にまで行き渡らせて下さる方なのです。

神の民を教え導くことを託された神の人が、常に神と共に生きる霊的な人であるならば、彼は”ラビ“とか、“主”、“父“と呼ばれるのにふさわしくないことを人々に表明します：これらの称号は神ご自身にのみふさわしいのです。ここに長い間の伝統の中で、ローマカトリック教会の人々が従ってきた教会の頭である、神の人が存在します。私たちがローマ教皇とお呼びするパパ様です。私たちは度々”聖なる父“さらに”最も聖なる父“とも呼んでいます。今日の福音では、”父“または”聖なる父“という称号を禁じているわけではありません。ただこの称号にふさわしいのは真実の神の人、神の教えと導きに従って、いつも神と共に生きる人でなければならないと言っているのです。ローマ教皇、神の民の最高の教師であるローマ教皇は、聖霊によってキリストのうちに神と結ばれている“聖なる父”でなければ、実り豊かに、託された職務を遂行して行くことはお出来にはなりません。

(Sr.Paulina)

ごちそう

丸山知佳子

今日は、癌の化学療法の日でした。午後２時までかかり、昼食がまだでした。色々と食事制限があるため、外食はなかなか出来ません。帰宅してからにしようと思い、病院から駅まで行ったのですが、駅に着くと、目がまわり、足がもつれて上手く歩けません。何処かで休憩して、何かお腹に入れた方が良いと思いました。

やっと見つけたパスタのお店。パスタも私が食べない方が良いものの一つでした。でも、何とかよく噛めば大丈夫かなと思われるパスタ料理の一品とオレンジジュースを注文しました。するとウエイトレスさんが言いました。

『セットメニューになさると、お好きなパスタに、スープ、サラダ、ドリンク、デザートもついて、単品でご注文なさるよりもお得ですよ！』

今の私は、こんなにたくさん食べられない状態です。こんなに食べたら、吐いてしまうか、お腹を下してしまうからです。

『有難うございます。でも、そんなに食べられないんです。単品で注文して高くなってもいいですから、このパスタとジュースだけ、お願いします。』と頼みました。

しばらくして、また、同じウエイトレスさんが来て、言いました。

『ご注文は、セット扱いで大丈夫です！』

どうも、そのウエイトレスさんは、店長さんに訊いてくれたようなのです。

『デザートに、寒天があるのですが、それも無理ですか？』と再び彼女。

『ああ・・・食べられないと思います。』と答える私。

その後、彼女は、注文したオレンジジュースとパスタ、そして、カップに入ったスープを持って来てくれました。『スープ、もしよろしかったら召し上がってください。でも、欲しくなかったら残してくださいね。』と言いながら。

結局、何とか、注文した料理を残さず頂き、スープも、二口ほど頂きました。レジでの支払いの時、そのウエイトレスさんに、「色々とお世話になりました。有難うございます。」とお礼を言ったら、『とんでもないです！パスタは召し上がれましたか？』と訊ねてくれました。その時、そうか、彼女は、私が病気だということを察してくれていたのだなと初めて気づきました。のど越しの良い寒天やスープのことも、そういう配慮があってのことだったのだなと。

「（パスタ）食べられました。美味しかったです！」と、私は笑顔で答えました。本当は抗癌剤の副作用で、せっかくのお料理の味はほとんどわからなかったのです。でも、このウエイトレスさんの優しさ、心遣い、そして「食べられましたか？」と訊いてくれた気持ちは、私にとって、何よりもの美味しいごちそうでした。

そのみ言葉によってわたしは望みをいだきます　　石原淳子

自分が受けた衝撃がどのようなものであるのか、そして、どのくらいのものであるのかを今もってわかりきれていないのですが、東日本大震災は底知れぬ深さをもって私の前に立ちはだかったことは確かです。　底知れぬ深さとは私にとっては、人となってこの世にこられた主イエズスキリストに、いのちがけの真剣さで従うことを促すものであることは確かです。

見聞きする被災地の状況に一喜一憂して祈りつつ、又、でき得ることは少しであっても尽くしたいと心がけつつ過ごす日々に、知らず知らずのうちに震災に関しての新聞の切り抜きなどが手もとにたまっています。

その中のひとつに、幾度も幾度も昼も夜も手にとって祈りをこめ時に涙してみつめる一枚の写真があります。　8月 12 日の朝日新聞朝刊に掲載されたものです。

それは、新聞一面の大きさを大幅に越えて、横 60 センチ余り縦 25 センチ余りのワイドスクリーンです。

「震災前はにぎやかだった岩手県陸前高田市の中心部。笛や太鼓の音が響く中、『うごく七夕まつり』の山車がひかれていった」とキャプションがあります。

山の端に日が沈む 6 時過ぎごろなのでしょうか。
空一面は茜色に染まり、山の影らしいものがうっすらとたなびくのを背景にして、樹木の茂る小高い丘が中央にふたつ影絵のように黒く重く沈んでいます。

その下の方麓のところに、写真全体からすれば小指の先ほどにも思える小ささで、人、人、人が一列に並んで歩き進んでいます。　ひとりふたりと指を添えて数えられるだけでも 100 人近い人の行列なのです。　そして行列の後方に人の背丈の 3 倍以上もありそうな高く大きな山車が、ひときわ明るみをもってくっきりと浮き上がるように陣取っています。

山車の上方にはたくさんの提灯がまたたき揺れて、前方と後方には長い房をさげた飾りが華やかに煌めきます。　頂上にはすすきのようにも動物のしっぽのようにもみえる巨大な穂をつけた２本のまっすぐな枝が旗印のように高々と掲げられて、采配を振る人の勇壮な声がきこえてきそうな晴れ姿です。

山車を引く列には談笑する若者の群れがあり、リュックサックを背負ったこどもの姿もみえます。

長い長い行列はこれからどこへ向かうのでしょうか。

それにしてもこの写真の中で最も強烈に目に飛び込んでくるもの、激しく心を殴打するものは、行列の手前に不気味に、無慈悲に、画面いっぱいに、えんえんと横たわるおびただしい瓦礫の山です。

ねじ曲がる太い電線、岩石の塊、粉砕されたありとあらゆるもの、これ等すべてが私たちの無力の果ての悲しみを鋭くよび覚まします。

夕日の茜色はここにも差しているのですが、瓦礫の中の水たまりに映えているのでしょうか。

黒く無機質の瓦礫のなかに、明るくぽっかりと浮かぶいのちのひとすじ。
七夕まつりの山車の行列。　そして、背景に広がる夕焼けの天空。

このアングルを切り取ったカメラマン（森井英二郎）の魂と見る者の魂とが共鳴を尽くす迫真の美しさです。
さながらこの世からのものではないような清らかな希望を感じさせる一枚です。

あらためて行列のひとり一人に思いを留めるとき、自ずと掌が合わさります。父を母を子どもを兄弟を友を、愛し合い親しみ合った人を、引きはがされ失った人たちです。　誰ひとり泣かなかった人はいないでしょう。　どの人も身が壊れるほどに泣いたでしょう。　今でも泣くでしょう。

5ヶ月後のこの日、茜色の空の下、「うごく七夕まつり」の山車をひきながら如何ばかりの心中を交わしているのでしょうか。

じっとみていると、この行列は十字架の道行きにも重なり、ミサ聖祭の聖体拝領の行列にも重なってくるかのようです。

一枚のこの写真に、私は無限の世界の現れを感じるのです。　奇妙なことにそれは懐かしいというような感情でもあります。

愛である神さまがひとり子を渡されるほどに愛されたこの世を生きることの意味、価値を深く与えられる思いをもつのです。

どうかみこころが天におこなわれるとおり地にもおこなわれますように

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

23. 福者テトス・ブランズマ (1881-1942) ― その9

福者テトスは、1881 年 2 月 23 日、オランダ北部のフリースラント州(フリジア地方)に生まれた。オランダではカトリック信者は少なく、当時、カトリック信仰が禁じられていたにもかかわらず、家族は熱心なカトリック信者であり、フランシスコ会に入会した兄と、修道女になった三人の姉妹がいる。彼自身、幼いころから司祭になることを志し、1898 年 9 月、オランダ南部のボクスメールで履足カルメル会に入会。修練期の間に、アビラの聖テレジアの著作に親しむようになり、その翻訳を手がけ始めた。1905 年司祭叙階、1909 年、ローマの教皇庁立グレゴリアン大学で哲学博士号取得。オランダに帰国して、神学生の養成に携わる。教授職の傍ら、カルメル誌を創刊し、1916 年には、アビラの聖テレジアの著作の翻訳を進めるためのグループを結成、他方で地元の新聞の編集者に選ばれるなど、ジャーナリズムの分野でも活躍する。1923 年に創立されたナイメーヘン・カトリック大学の設立にも関わり、哲学と神秘神学史を教えた。

ジャーナリストとしては、世界の善益のためにメディアを積極的に活用し、真実を公言してナチスに抵抗、ナイメーヘンでは学生から慕われる教授であり、神秘神学の講義においては、自身の深い祈りの生活の実りを語っていることを感じさせていた。カルメル会においては、共同生活を重んじ、すべての勤行に参加した。十字架の神学に深い興味を抱いており、それは、彼の未来を準備することとなったようである。

1942 年 1 月、ナチスにより逮捕される。彼は自分を逮捕しに来た人をも許し、イエスの足跡に従った。ナチスは彼を最も危険な敵対者とみなし、収容所を転々とさせた。獄中で、詩を書き残した他、アビラの聖テレジアの伝記を書き始めたが、未完のまま終わっている。8 世紀にフリースラントの地に初めて信仰を伝え殉教した聖ボニファチウスをまつる教会のために書かれた十字架の道行きの黙想も、獄中でしたためられたものである。1942 年 7 月 26 日、ダッハウ強制収容所で石炭酸の注射により殉教、訪れるところには、どこにでも――ダッハウにさえ――幸福をもたらしたその生涯を終えた。1985 年 11 月 3 日、教皇ヨハネ・パウロ 2 世により列福。聖テレジアと十字架の聖ヨハネを深く愛したテトスの列福は、履足・跣足の両カルメル会にとって大きな喜びとなった。

福者テトス・ブランズマ

—— 祈り ——

十字架の道行きの黙想——聖ボニファチウス教会のために

第13留　イエスの体 御母のひざにおろされる

おお、イエス、あなたは、ご自分の遺体が聖母の膝の上に載せられるままになられることによって、なんという模範をお与えになったのでしょう。確かに、それは、聖母の御悲しみを増し、聖母はあなたの痛みと苦しみにいっそう深くご自分をお合わせになりました。しかし、同時に、あなたは聖母をあなたの御力で満たし、殉教者の元后として、聖母に冠をお与えになったに違いありません。

おお、マリア、悲しみの御母、教会の御母よ、膝の上にイエスの御体を抱いたあなたの姿を観想するとき、「おお、道行く人よ、心して目を留めよ。私を責めるこの痛みほどの痛みがあったろうか(哀歌1:12参照)」ということばが、あなたの御口にも上ったことが、私には分かります。あなたとともにすべての苦しみを担うために、神なる御子の御体を、あなたとともに観想することを、私に教えてください。

おお、聖ボニファチオ、あなたは、苦しみと死において力をいただくために、亡くなられた救い主の御傷をどれほど度々マリアとともに黙想し、ミサのいけにえを捧げる間、十字架上のイエスのご死去を思いめぐらされたことでしょうか。

おお、心優しく……イエス……(訳注:この後は、省略されている)。

第14留　イエス　新しい墓に葬られる

(この作品を完成させる前に、テトス・ブランズマは処刑されたので、未完成のまま残されている)

おお、イエス、あなたを見上げるとき、あなたへの私の愛は、新たに起動し始め、あなたの御心が私を愛してくださっていること、あなたが私の特別な友となってくださることを、私に告げてくれます。

確かに、私は、さらに大きな勇気を必要とするようになるでしょう。しかし、どのような苦痛にも、私は耐えます。その苦痛が、私をあなたに似た者とし、あなたの御国に導いてくれるからです。

悲しみのうちにこそ、私は喜びを見出します。悲しみは、もはや悲しみではなくなり、通るべき道となります。その道によって、私は、私の神であるあなたと一つになるのです。

おお、どうか、私をここで静かに一人きりにしておいてください。周りは冷たく、冷え冷えとしています。ここに入るために、私は何も手に持っていないことでしょう。一人でいるとき、私は疲れることがありません。

イエス、それは、あなたがそばにいてくださるからです。私たちは、かつてこれほど身近にいたことがあったでしょうか。私とともにとどまってください、イエス、私の喜びよ、あなたが近くに現存してくださるなら、すべてのことは正しく変えられていくのです。

* * * * * * * * * * * *

この記事は、跣足カルメル在世会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL http://www.ignatius.com) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(泰阜カルメル会訳・編)

いのちの言葉　9月

お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。
いなくなっていたのに見つかったのだ。
祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。

（ルカ１５・３２）

これは、あなたもよくご存知の「放蕩息子」のたとえ話を締めくくる言葉であり、神様の憐れみの大きさを示しています。ルカ福音書の同じ章の中で、イエスは、神様の憐れみを示すため、他の二つのたとえを挙げておられます。

見失った一匹の羊を探すために、九十九匹の羊を野原に残して行った人のたとえ(*1)を、覚えていらっしゃいますか。

また、ドラクメ銀貨を一枚無くした女性が、それを見つけると、友達や近所の人を呼び集めて、共に喜んだ話(*2)を思い出されますか。

お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。

神様は、あなたに、またすべてのキリスト者に向かって、この言葉を語っておられます。神様は、遠く離れていた罪人が戻ってきたことを、ご自分と共に喜ぶよう、私たちを招いておられるのです。たとえの中では、父親が、生涯忠実に過ごしてきた上の息子に対して、この言葉を語っています。一日のつらい仕事を終えて帰ってきた兄は、弟の帰宅を祝って祝宴が開かれているのを見て、家に入ろうとしなかったからです。

父親は、弟を出迎えたように、兄のところに行って、説得しようと努めます。しかし、父親の思いと兄の思いには、大きな違いがあることは明らかです。父親は、限りない愛をもって、息子が帰って来たことを喜び、みんなにも自分と同じように喜んでほしいと願っています。しかし兄の方は、弟をひどく軽蔑し、嫉妬心にあふれ、弟とも思っていないのがわかります。実際、弟について父親に話しながら、「あなたの身上を食いつぶした、あなたのあの息子」(*3)という言葉を使っています。

帰ってきた息子を愛と喜びをもって迎える父親の姿と、恨みを抱いている兄の姿は対照的です。このような恨む思いは、兄が父親に対して、冷たい偽りの関係しか持っていないことを示しています。兄は、自分の仕事や務めをしっかり果たすことは大切にしていても、息子として父親を愛してはいないのです。むしろ兄は、主人に仕えるかのように、父親に従っていると言えるでしょう。

お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。

この言葉を通して、イエスは、あなたも陥りうる危険を指摘しています。つまり、きちんとした生活を営み、完全であることを目指して生きる一方で、自分よりも劣っている人々を裁いてしまうことです。実際、完璧主義に陥る時、私たちは、自分自身でいっぱいになり、心は自分を誇る思いであふれてしまいます。それは、先のたとえの中で、「わたしは何年もお父さんに仕えてきました。言いつけに背いたことは一度もありません」(*4)と、自分の良いところを父親に向かって列挙する兄の姿に通じるものです。

お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。

この言葉を通して、イエスは、人と神様との関係が、掟を守ることだけに終わらないよう、望んでおられます。掟を守るだけでは十分ではないからです。このことは、ユダヤ教の教えの中にもよく示されています。

イエスは、たとえの中で、神様の愛に光を当てておられます。すなわち、愛でおられる神様は、人間がその愛に値するかどうかにかかわらず、ご自分の方から先に人を愛してくださる、ということです。神様は人がご自分に対して心を開き、ご自分と真の命の交わりを築くよう望んでおられます。このような神様の愛を阻む最大の障害物は、「活動主義」に終わっている生活でしょう。神様が求めておられるのは、その人たちの「心」だからです。

お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。

この言葉を通して、イエスは、御父が罪人を限りなく愛しておられるように、あなたも彼らを愛するよう、招いておられます。御父がすべての人に注がれる愛を、あなたが自分の尺度で裁いてしまわないよう、イエスは呼びかけておられます。たとえ話の中で父親は、弟が戻ってきたことを、兄も喜ぶよう望んでいますが、御父は、私たちにも考え方を変えるよう求めておられます。それは、軽蔑したり見下げたりしたくなるような人々を、兄弟姉妹として受け入れることです。このように生きる時、私たちの中には、真の回心が生まれ、自分は立派な生活をしていると思い上がることもなくなるでしょう。また、自分とは違う宗教の人も受け入れるようになり、イエスがもたらされた救いは、神様の愛による無償の賜物であることを理解するようになるでしょう。

キアラ・ルービック

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、2001年3月に発表されたものです

＊１　ルカ15・4-7参照
＊２　ルカ15・8-10参照
＊３　ルカ15・30参照
＊４　ルカ15・29

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

★ お知らせ

関東：「いのちの言葉」の集い
日時：9月11日（日）14：00（13：30受付）
場所：藤沢市労働会館

Power of Smile
東北支援チャリティーコンサート
日時：10月9日（日）14時～16時
場所：イグナチオ教会（四ツ谷）
１F　ヨセフホール
チケット：1,000円
（義援金として 被災地に送られます。）
＊詳細はフォコラーレ・センターまで

連絡先
フォコラーレ:03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
ホームページ:フォコラーレで検索
http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito

跣足カルメル修道会HP（International）

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< Communications（時事通信）>>

カルメル修道会の拡大総長顧問会は、総長からの報告で始められました。

ローマ ― イタリア発，2011年9月6日

拡大総長顧問会の上に神の祝福を願って，総長の司式で聖霊のミサが捧げられました。
総長はミサの中で、主が使徒たちを選ばれた福音の個所から、彼らが兄弟姉妹たちに仕えるためにどのように召し出されたかを思い起こされました。その後、朝９時に第一セッションが始まり、総長はこの会議の目標として、民数記９章１５節から１８節を朗読した後、「赦し合い、共に祈り、食事をし、共に休憩時間し、さまざまな出来事を通して互いと出会うことは、いつも豊な体験であり、私たちの人生に力と光を与えてくれます。多くの人たち、特にカルメル会のシスターたちがこの会議の成功のために祈ると約束してくれました。私は、主が私たちとともに、私たちを通して働かれると確信しています。」と述べられました。

さらに総長は、カルメル修道会の本部と、地理的に異なる諸管区から集った人々との出会いの実りを強調され、今回の出会いで目指される実りは、次の諸点であると指摘されました。

・我々のカリスマから溢れ出る本質を明確に言い表す必要性
・我々の兄弟的愛の生活体験の果たす中心的な役割
・異なる地域・管区間における共同・協力の必要性
・いくつかの管区の統合という、チャレンジとも言うべき地域諸管区の改正に対する提案

また総長は、諸管区諸地域の状況を発表するよう求められ、それぞれの報告を明瞭にするための対話を指導されました。この対話は、広範囲にわたる豊富な意見交換をもたらし、そこから生じたいくつかの課題は、翌日のセッションで取り上げられました。主な課題は次の通りです。
・異なる地域・管区間の共同・協力とカルメル修道会の本部の指導的役割の必要性
・修道者は文化的・知的なことだけでなく、養成においてカルメルのカリスマを習得することの重要性
・アフリカにおけるカルメル修道会の現状に対する将来的アプローチ

翌日は、カルメル修道会本部の管理組織の報告が続けられ、聖テレジア生誕500年記念祭のプロジェクトと行事について説明がなされました。

拡大総長顧問会の決議事項：カルメル修道会の司教たちは、教皇様に2015年を「祈りの年」として宣言していただくことをお願いすることになりました。

ローマ　―　イタリア発、2011年9月11日
拡大総長顧問会議に出席したカルメル修道会の司教たちは、2015年を「祈りの年」として宣言していただくよう、教皇庁にお願いすることを決議いたしました。教皇ベネディク１６世宛の書状の中で、司教たちは、聖テレジア生誕500年を記念して、教皇にこの宣言をしていただくようお願いすることになりました。

この知らせは9月11日の午後、会議の終了直前になされ、拡大総長顧問会は、司教たちが起草した、2015年をカルメル修道会の保護の聖人である聖テレジアとともに「祈りの年」として捧げていくとする教皇様への書状を、喜びのうちに受諾しました。

カルメル会の企画案内

聖テレジア（イエスの）おとめ教会博士祭日
ミサと晩の祈りのお知らせ

東京　上野毛教会

１０月１５日（土）

ミサ　　朝 6:30～　10:00～

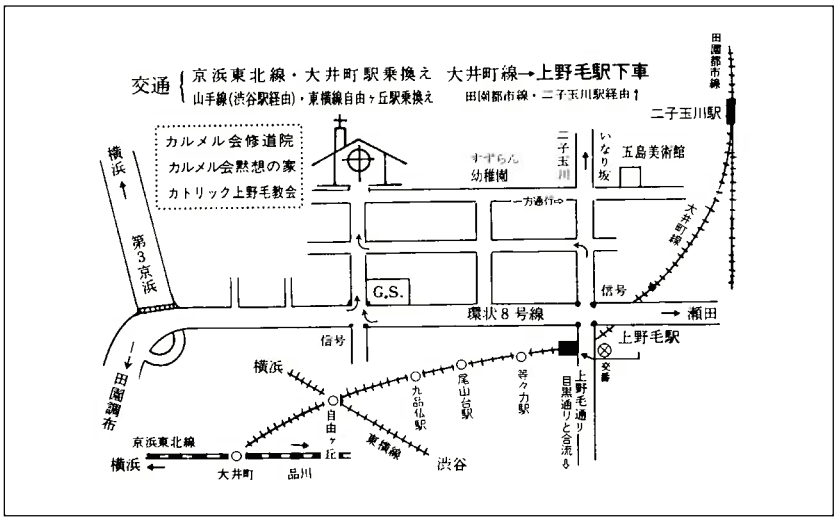
晩の祈り　　17:30～

１０月１６日（日）

イエスの聖テレジアを祝うミサ　10:30～

（7:00 8:30 18:00 は主日のミサを行います）

場　所：カトリック上野毛教会聖堂(東急大井町線上野毛駅下車徒歩７分)
東京都世田谷区上野毛 2-14-25　カルメル修道会(TEL03-3704-2171)



上野毛霊性センター　～’１２年３月

黙想企画　＊＊　聖テレジア修道院（黙想）　＊＊

１．一泊聖書深読指導：新井延和神父

（毎回金曜日夕食～土曜日１６時）

２０１１年

１１月１１日～１２日

２．奉献生活者のための黙想会

２０１１年

１２月２７日(火)夕食～１月　５日(木)朝　　福田正範神父

３．木曜黙想会(毎回木曜日１０時～１６時)

２０１１年度共通テーマ《いのち》

１１月１７日　「いのちであるお方とともに」　古川利雅神父

２０１２年

１月２６日　「永遠のいのち　－霊から生まれた者は霊である－」　中川博道神父

４．金曜黙想会カルメルの聖人(毎回金曜日１０時～１６時)

２０１１年

１０月２８日　「福者三位一体のエリザベット」　古川利雅神父

１２月１６日　「十字架の聖ヨハネ」　福田正範神父

２０１２年

２月１７日　「幼きイエスの聖テレジア」　カルメル会士

５．青年黙想会(男女)　福田正範神父、カルメル会士

１１月２５日(金)１８時～１１月２７日(日)１５時

６．召命黙想会(男女)　福田正範神父、カルメル会士

１０月８日（土)１５時～１０日(月)１５時

７．祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

２０１１年１２月２４日(土)～２５日(日)《講話なし、夕食なし》

８．特別黙想会　伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

テーマ：「私は神を見たい」

１０月１４日(金)２０時～１６日(日)１６時　「祈り」

１４日は夕食を済ませてご参加ください。

９．待降節黙想会

１２月　９日(金)夕食なし～１１日(日)昼まで　指導：古川利雅神父

電話でのお問い合わせは午前 9 時から午後 4 時 45 分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべく FAX・はがき・Ｅメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL　03－5706－7355

FAX　03－3704－1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル召命黙想会

イエスと共に兄弟姉妹と共に

日　時：　10月８日（土）15時～10日（月）15時
場　所：　カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
　　（東急大井町線上野毛駅下車）
対　象：　独身青年男女（45歳まで）
定　員：　20名
費　用：　一般10,000円　学生7,000円
締　切：　10月１日（土）
指　導：　福田正範神父・他カルメル会士

※ 住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、
ハガキ・ＦＡＸ・Ｅメールのいずれかで下記まで。
折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
電話：０３（５７０６）７３５５
FAX：０３（３７０４）１７６４
Email：mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会　≪わたしは神をみたい≫

２０１０年10月１４日（金）20時～１６日（日）15時

アビラのテレサの祝日にあたり
祈りのひと時を過ごしませんか。

― アビラのテレサ ―

・ **他の人たちとはよく話すあなた方が、**
どうして神さまと話すことができないのですか･･･
～『完徳の道』～

・ **わたしを信じてください。**
あなた方が主のすぐそばに留まることになれ、
彼もあなた方が愛をこめて彼を喜ばせようと
努めているのをご覧になれば、主も決してあなた方を
見捨てられないでしょう。　～『完徳の道』～

精神的にキリストのみ前に身を置き、
その聖なるご人性に対する
最大の愛に少しずつ燃え立ち
常に彼のそばに留まり、
彼に語り、
必要を打ち明ける単純な言葉で話すように・・・
これこそ短時日で祈りに進歩するすぐれた方法です。

～『自叙伝』～

● **指　導：**　伊従　信子　（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
● **持参品：**　新約聖書、『いのりの道』マリー･エウジェンヌ著、『完徳の道』アビラのテレサ著
筆記用具、パジャマ

● **場　所：**　カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158 - 0093　東京都世田谷区上野毛２-14-25　TEL 03-5706-7355
● 申し込み方法　ハガキまたは、FAX.03-3704-1764

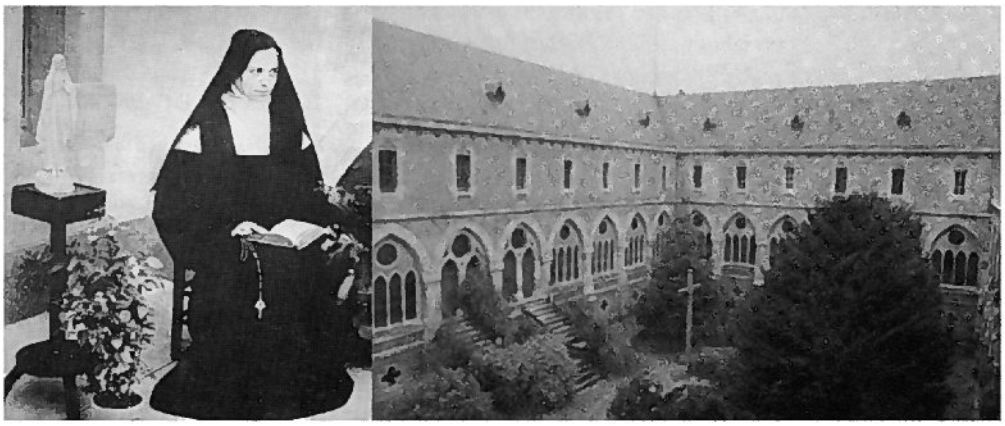
金 曜 黙 想 会

—福者三位一体のエリザベット—

神との親しさのうちに生き、２６歳で天に召されたエリザベット。
彼女の生涯と霊性に触れ、神との親しさに招かれてみませんか？

２０１１年１０月２８日（金曜日）10時～16時まで

場　所　：　上野毛聖テレジア修道院（黙想）
指　導　：　古川利雅神父（カルメル修道会）
会　費　：　３，５００円
持ち物　：　ノート、筆記用具。



お申込み・お問合せは、ハガキ、FAX、E-mail、TEL のいずれかで下記まで。

黙想会名と日程、氏名、年齢、性別、住所、連絡先電話番号、所属教会を明記の上、申込みをお願いします。

158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
TEL 03-5706-7355　FAX 03-3704-1764
E-mail　mokusou@carmel-monastery.jp

お願い：　申込は間違いを防ぐため、なるべくハガキ、FAX、E-mail でお願いいたします。
電話での問合わせは、午前 9 時から午後 4 時 45 分の間にお願いいたします。

木 曜 黙 想 会

—いのちであるお方とともに—

私たちはいのちであるお方、父と子と聖霊の三位一体の神との
親しい愛の交わりのうちに、ともに生きる様に招かれています。
静けさのうちに、私たちを愛される神と共に過ごしませんか？

２０１１年１１月１７日（木曜日）10時～16時まで

場　所　：　上野毛聖テレジア修道院（黙想）
指　導　：　古川利雅神父（カルメル修道会）
会　費　：　３，５００円
持ち物　：　ノート、筆記用具。

お申込み・お問合せは、ハガキ、FAX、E-mail、TEL のいずれかで下記まで。

黙想会名と日程、氏名、年齢、性別、住所、連絡先電話番号、所属教会を明記の上、申込みをお願いします。

158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
TEL 03-5706-7355　FAX 03-3704-1764
E-mail　mokusou@carmel-monastery.jp

お願い：　申込は間違いを防ぐため、なるべくハガキ、FAX、E-mail でお願いいたします。
電話での問合わせは、午前 9 時から午後 4 時 45 分の間にお願いいたします。

カルメル青年黙想会

「聖霊と恵み」

日　時：　11月25日(金)18時～11月27日(日)15時

場　所：　カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
(東急大井町線上野毛駅下車)

対　象：　青年男女(35歳迄)

定　員：　20名

費　用：　一般　10,000円　　学生　7,000円

締　切：　11 月18日(金)**〈必着〉**

指　導：　福田正範神父・他カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、
ハガキ・ＦＡＸ・Ｅメールのいずれかで下記まで。
折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
電話　０３（５７０６）７３５５
FAX　０３（３７０４）１７６４
Email　mokusou@carmel-monastery.jp

勉強会のご案内

■場所： カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当： 中川博道 （カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください

「カルメルの霊性に親しむ」

朝のクラス・火曜日 ≪10:30～12:00≫	夜のクラス・金曜日 ≪19:15～20:45≫
10 月 25 日	10 月 28 日
11 月 22 日	11 月 25 日
12 月 20 日	12 月 20 日＊火曜日

「キリストとの親しさ」

朝のクラス・火曜日 ≪10:30～12:00≫	夜のクラス・金曜日 ≪19:15～20:45≫
10 月 11 日	10 月 14 日
11 月 8 日	11 月 11 日
12 月 6 日	12 月 9 日

「キリスト教の基本を学ぶ」

―洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に―

いずれも 金曜日

朝のクラス≪10:30～12:00≫ 夜のクラス≪19:30～21:00≫

10	10 月 7 日	「福音が語るイエス・キリスト」
11	10 月 21 日	「イエス・キリストの自己理解」
12	11 月 4 日	「キリストに近づく」
13	11 月 18 日	「教会；キリストに呼び集められた人々の集まり」(1)
14	12 月 2 日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」（２）
15	12 月 16 日	「キリストと共に生きる道」(1)
16	1 月 13 日	「キリストと共に生きる道」(2)
17	2 月 3 日	「キリストと共に生きる道」(3)

（お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp）

２０１１年　　黙　想　会　案　内　（宇治カルメル会）

【一般のための黙想】　1泊2日（午後5時～午後4時）

11月19日(土) ～20日(日) ユダヤ人の王　　新井延和神父

【聖書深読黙想会】

・１日黙想（午前10時～午後4時）

10月 8日(土)　　九里彰神父

12月10日(土)　　新井延和神父

・水曜の黙想（午前10時～午後4時）

10月12日(水) ロザリオの祈り　　松田浩一神父

11月 2日(水) 死とは何か　　新井延和神父

12月14日(水) 愛の生ける炎　　九里彰神父

・待降節の黙想（午後5時～午後4時）

12月 3日(土) ～12月 4日(日)　　松田浩一神父

【青年のためのキリスト教霊性】（午後5時～午後4時）　対象：40歳以下の青年男女

11月5日(土) ～11月6日 (日)　　松田浩一神父

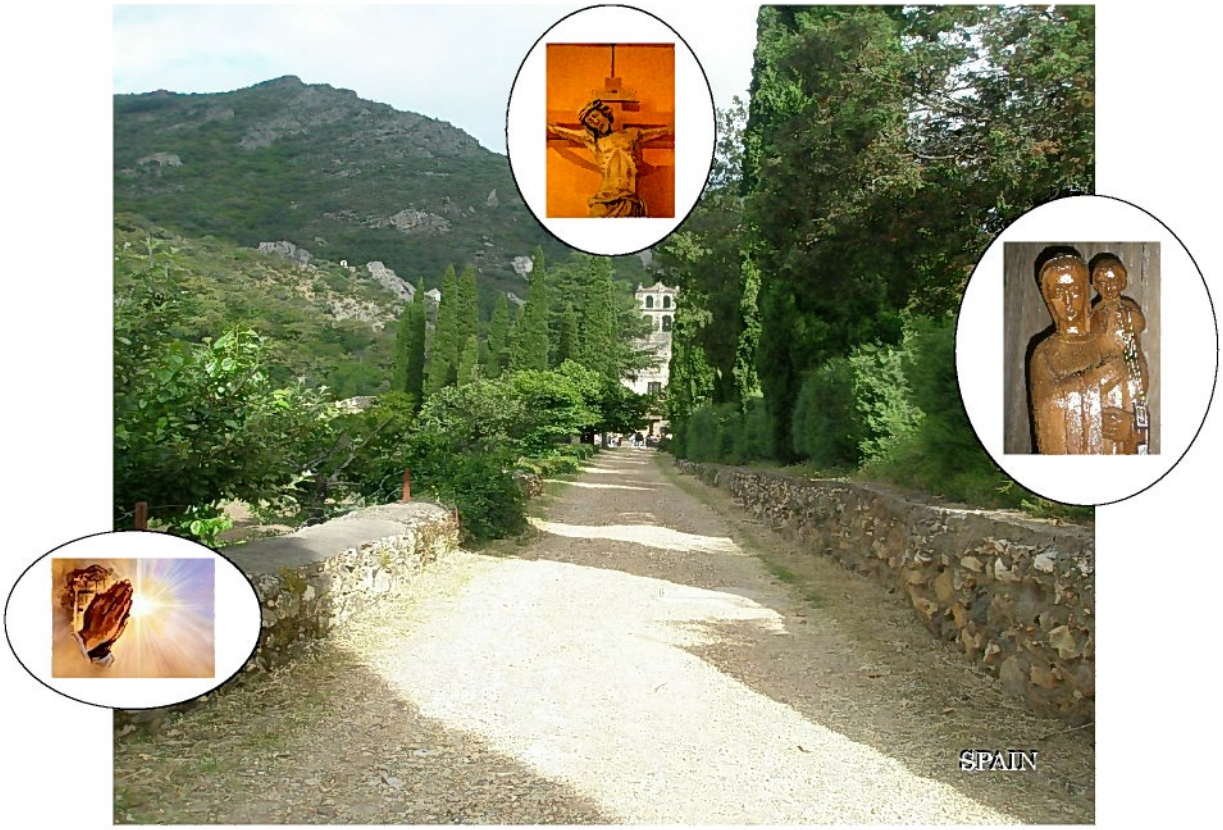
【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）

12月27日(火)～　1月　4日(水)　　新井延和神父

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会,個人黙想も歓迎いたします。－

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Ｅメールで お名前と連絡先を御記入の上、 お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016 ,　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



カルメル会　修道生活体験コース

イエス・キリストを中心にしたカルメルの祈りと共同生活の体験をしてみませんか？

対象： 20 歳～39 歳の心身共に健康な青年男子
場所： カルメル修道会　宇治修道院（京都）
期間： 11 月4日（金）16 時～6日（日）16 時（予定）
担当： 松田神父・新井神父・今泉神父
費用： 5,000 円
定員： 　4名
申込方法：
住所・氏名・年齢・電話番号・所属教会を
記入し、ハガキ・FAX・E メールで下記まで。

※　申し込まれた方は、後日交通機関等の資料をお送りします。

参加受付中

締切：10月30日（日）必着

お申し込み・お問合せ

〒611－0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
男子跣足カルメル修道会宇治修道院（院長　松田神父）
[Tel]0774-32-7456　[Fax] 0774-32-7457
[E-mail] teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人（働いている人）のための霊的同伴』
―日常のキリスト教霊性を求めて―

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴（スピリチュアル・コーチング）**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点（**霊的理解**）を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴**（一人 30 分）を行います。
- メソードの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】　6 人

【開催日】

① 2011年　1月21日（金）～22日（土）
② 2月18日（金）～19日（土）
③ 3月25日（金）～26日（土）
④ 4月15日（金）～16日（土）
⑤ 5月13日（金）～14日（土）
⑥ 6月17日（金）～18日（土）
⑦ 7月22日（金）～23日（土）
⑧ 9月　9日（金）～10日（土）
⑨ 10月28日（金）～29日（土）
⑩ 11月11日（金）～12日（土）
⑪ 12月16日（金）～17日（土）
⑫ 2012年　1月13日（金）～14日（土）
⑬ 2月10日（金）～11日（土）
⑭ 3月16日（金）～17日（土）

（毎回金曜日　20 時（夕食なし）～土曜日 15 時）

【参加費】　各回 5，500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父（カルメル会士）

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へ FAX、はがき、E メールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39－12
カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）
Tel　0774－32－7016、Fax　0774－32－7457
E-Mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」
～都会の中の一日静修～（２０１１）

「私たちの間にある神の国を探して」―今の時代に芽生える神との新たな出会い―

「神の国は見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがの間にあるのだ」（ルカ１７章２１節）

“混乱の時代”“行き詰まりの時代”“崩壊の時代”・・・と言われる時代の中にも、「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることはない。」（イザヤ６５章１７節）という神のみ言葉は力強く響き始めています。第2バチカン公会議終了後やがて半世紀を迎える現代世界と教会の中に、新しい神との出会いは生まれ始めています。

2011年はこの「神の国の芽生え」を私たちが日常生活の中に探す光を共に探しつつ歩みたいと思います。

第１回	１月１０日（月・祝）	混沌の中に差し込む光（創世記１章）	中川博道神父　（上野毛修道院）
第2回	2月26日（土）	主が示される地に向かって（創世記12章）	松田浩一神父　（宇治修道院）
第3回	3月12日（土）	絶望の中の光（イザヤ43章、65章）	高山貞美神父　（聖心布教会）
第4回	4月　9日（土）	新しい派遣（列王記１９章）	新井延和神父　（宇治修道院）
第5回	5月　5日（木・祝）	新しい契約（エゼキエル36章）	今泉健神父　（上野毛修道院）
第6回	6月25日（土）	神の国の芽生え（マルコ4章）	三上和久神父　（三馬修道院）
第7回	7月18日（月・祝）	わたしの中に生きるキリスト（ガラテア2章）	ボクダン神父　（南山教会）
第8回	9月17日（土）	キリストの新しい掟（ヨハネ１３章）	Sr.パウリナ（宣教カルメル修院）
第9回	１０月22日（土）	新しい生活（改革）、アヴィラの聖テレジア	松田浩一神父　（宇治修道院）
第10回	１１月23日（水祝）	新しい生き方の根、十字架の聖ヨハネ	九里彰神父　（宇治修道院）

＊　時間　AM10:00～PM4：00
＊　場所　カトリック日比野教会（地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分　＊聖テレジア幼稚園隣接
＊　参加費　1,000円
＊　持ってくるもの　聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
＊　定員　約30名
＊　プログラム　１０：００～　祈り・導入・黙想
１０：３０～　講話（１）
黙想・赦しの秘跡または面接
１１：５０～　昼の祈り・お告げの祈り
１２：１５～　昼食
１２：５０～　黙想・赦しの秘跡または面接
１３：３０～　講話（２）
１４：４５～　ミサ
１５：３０～　茶話会・分かち合い
１６：００～　終了予定

☞　申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名･住所・TEL、（所属教会）を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆　名古屋カルメル霊性センター
〒456－0062　名古屋市熱田区大宝4－5－17　カルメル会日比野修道院　FAX 052-671-1825
一日静修連絡係　〒465－0058　名古屋市名東区貴船3－2115　小林　厚･晃子
TEL・FAX 052-701-3685

２０１１年度名古屋聖書深読会

第２回　１０月２９日（土）　　新井延和神父（宇治修道院）

○　時間　午前１０時～午後４時

○　場所　カトリック日比野教会
　　地下鉄名城線日比野下車、徒歩約５分
　　＊聖テレジア幼稚園隣接

○　参加費　￥１０００

○　持ち物　聖書・筆記用具・ノート・昼食等

＊　毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

＊　申し込みは、開催日の３日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

＊　対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞　申し込み先　　名古屋カルメル霊性センター
〒456-0062　名古屋市熱田区大宝４－５－１７
カルメル会日比野修道院
FAX０５２－６７１－１８２５
☆連絡係
〒465-0058　名古屋市名東区貴船３－２１１５
小　林　　厚・晃　子
TEL/FAX０５２－７０１－３６８５

土曜フレックスタイム静修

毎月第 3 土曜日 13:30～16:30 の予定で行います。

ご自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき

(来る時間も帰る時間も自由)、霊的にだけではなく

心身ともにリフレッシュできる時間としてご利用下さい。

日時　毎月第 3 土曜日 13:30～16:30

場所　三馬教会(石川県金沢市)

プログラム

13:30～15min.　聖書朗読と短い講話

14:30～15min.　ベネディクション・聖体顕示

15:30～15min.　サルヴェレジナ・聖体拝領

16:30　終了

各合間の時間は各自自由に黙想しながら祈る時間です。

カルメル霊性センター

〒921-8162　金沢市三馬 3 丁目 324 番地

カルメル会三馬修道院　三上和久神父

TEL 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

１　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
２　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

１　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：６ヶ月 18,900 円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は１6,900 円

講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

２　ミニ深読

グループで２、３時間かけて聖書深読法の一部分を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはＳｒパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒパウリーナまでご連絡下さい。

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒパウリーナ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

新刊紹介

神と人びとへの　燃える愛の心からあふれたでた短い言葉集

テレーズの短い人生のなかで残された言葉が
四季の花々のように光をあび、輝いています。

毎日美しい１日をはじめるために　　愛と信頼、委託、喜びの言葉！

レイモンド・ザンベリ　/　編
伊従　信子　/　編訳

女子パウロ会出版　３９１　ページ

2011「カルメル」今日の霊性・夏号 特集号

カルメル 2011 特集号

「混沌の時代に生きる道を探して」

特集

● 目次 ●

荒れ野を行く道　中川博道　2
キリスト教の歴史から学ぶ
―悔い改めた信徒のエネルギーと教会の再生　川村信三　16
使徒職の現場から　釘宮禮子　29
神のいつくしみの中に生きる
イエスの聖テレサ　松田浩一　37
暗夜の中を歩む　十字架の聖ヨハネと共に　九里　彰　51

2011 夏 No.341

● 目次 ●

《二〇一一年特集　マリー・エウジェンヌ(2)》
キリストの喜びとひとつに
――マリー・エウジェンヌ師と司祭職　ルイ・マンヴィエル　編・訳　中山　眞里　3
聖性への招き　十字架の聖ヨハネに導かれて
変容までの長い道のり　マリー・エウジェンヌ(7)　編・訳　伊従信子　10
『完徳の道』におけるアヴィラの聖テレジアと離脱　九里　彰　15
カルメルの霊性の源流を探して
――その「会則」に見る生活(4)　中川博道　21
修道院生活　春夏秋冬(2)　高橋重幸　27
乙女、使徒、殉教者たちの女王である勝利の聖母に　ペトロ・アロイジオ　33
死に臨む言葉
――エディット・シュタインの
アウシュヴィッツへの道ゆき(3)　須沢かおり　39
大きな視野・小さな視野
――第二バチカン公会議との関連で　谷口正子　44
愛の断章(20)　奥村一郎　50

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊４６０円です。

- 送付ご希望の方は、６００円【内訳　４６０円（＋送料１４０円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年５冊：春夏秋冬号・特集号【４６０円×５＝２，３００円】＋ 送料【７００円】計　３，０００円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。
ＴＥＬ（０３）５７０６－８３５６

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
リーゼンフーパー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572－0001 大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり 内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2011年予定

Ｋ４ 10/07（金）-10/13（木）東京･小金井･聖霊会
Ｆ１ 11/4-9 福岡･黙想の家 （５泊６日）
Ｎ５ 11/15（火）-10/21（月）滋賀･唐崎・ノートルダム
Ｋ５ 11/28（月）-12/04（日）東京･小金井･聖霊会
Ｍ４ 12/11（日）-12/17（土）兵庫･売布･女子ご受難会

2012年予定

Ｍ１ 01/13（金）-1/19（木）兵庫･売布･女子ご受難会
Ｋ１ 01/24（火）-1/30（月）東京･小金井･聖霊会
Ｍ２ 02/13（月）-2/17（金）韓国グループ限定 兵庫･売布･女子ご受難会（４泊５日）
Ｐ１ 02/11（土）-2/17（金）西宮・女子トラピスチヌ
Ｋ２ 03/02（金）-3/08（木）東京･小金井･聖霊会
Ｂ１ 03/10（土）-3/16（金）千葉白子・十字架イエス・ベネデイクト
Ｍ３ 03/23（金）-3/29（木）兵庫･売布･女子ご受難会
Ｐ１ 04/10（火）-4/16（月）西宮・女子トラピスチヌ
Ｎ１ 04/27（金）-5/03（木）滋賀唐崎・ノートルダム

真命山　2011年 － 祈りの集いのご案内

真命山は、次の意向で来訪される方々を歓迎します

- 祈りの時をすごし、静かに内省し、
  沈黙の中で黙想し、静修し、神のことばを聞く
- 自然の中で自分の信仰の根源を探求する

真命山の一日の流れは、祈りと働きです

午前
- 朝の祈り(太陽が昇る時)
- 座禅
- ごミサ

午後
- インマヌエルの祈り
- 晩の祈り(日没にあわせて)
- 寝る前の祈り

毎第二木曜日、一般人参加による一日の祈りの集い。
2011年の祈りの集いテーマは次の通り

典礼暦年間を通して教会とともに祈る

1 月	13 日	典礼暦一年の周期
2 月	10 日	聖人の記念日 1
3 月	10 日	四旬節
4 月	14 日	過越の三日間
5 月	12 日	復活節
6 月	9 日	聖霊降臨の祭日
7 月	14 日	聖人の記念日 2
9 月	8 日	聖人の記念日 3
10 月	13 日	日曜日 主の日
11 月	10 日	待降節 1
12 月	8 日	待降節 2

毎月第二木曜日、一般人参加による一日の祈りの集いには、どなたでもご参加いただけます。ご参加希望の場合は、あらかじめ電話・ファックス・メールでお知らせください。

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ　サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア　デ・ジョウルジ

申し込み先
865－0133
熊本県玉名郡和水町1391－7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
TEL　0968－85－3100
Fax　0968－85－3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

リーゼンフーバー講座・集いの案内　２０１１年

●キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー　以下の土曜日、
9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP（文末）を見て下さい。
冬学期: 中世のスコラ学・神秘思想 (11－15世紀)　10/08、10/15、10/22、10/29、11/12、11/19
12/03、12/10、01/07、01/14、01/21、01/28

●坐禅会
月曜日　17時20分～20時10分
木曜日　18時～20時30分
(祝日、4月21日を除く)
場所：上智大学内クルトゥルハイム1階正面左の部屋
3回坐り、間に講話があります。
初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

●接心
秋川神冥窟　1泊2400円程度
関東
11月02日(水)：20時30分-11月6日(日)　10時

●ミ　サ　　水曜日 17時10分－18時
上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●ミサ後の黙想
18時－18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●祈りの集い　下記の土曜日
13時30分－16時 上智大学内SJハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
10月8日、11月12日、12月3日、
2012年1月7日、2月18日、3月10日
●ロザリオの祈り　同日16時10分～50分
クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙　想
【会社帰りの黙想】
毎月第2・第4火曜日　　18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
但し祝日、8月9日休み。8月23日は上智大学内クルトゥルハイム聖堂。
【お昼の黙想】　毎月第1・3火曜日
10時40分～12時　聖イグナチオ教会
マリア聖堂　但し祝日、8月2日は休み。

●黙想会
11月26日(土)10時－27日(日)15時(東村山)、
2012年　2月4日(土)10時－5日(日)15時(東村山)
＊1泊5900円程度

●アガペ会
10月22日(土)
2012年　1月21日(土)
説明会・集い(13時半～)：上智大学内S.J.ハウス第5会議室
ミサ(17時　～)：クルトゥルハイム1階テレジア聖堂

●クリスマス会
12月17日(土) 16時30分 聖イグナチオ教会マリア中聖堂(予定)、18時岐部ホール4階。要申し込み。
クリスマスのミサ
12月23日(金) 14時－上智大学内クルトゥルハイム聖堂

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座　2011年
日時　毎週金曜日
　　18時45分～20時30分

10/07　人間としてのイエス― 新しい人間像の基礎づけ
10/14　御子としてのイエス― イエスの神との関係
10/21　父と子と聖霊― 神の生命に与る
10/28　信仰の決断― 支えられて生きる
11/04　休み
11/11　ミサ祭儀― 神への奉仕と生活の糧
11/18　自己実現と神の意志― 生き方の規範
11/25　人間の弱さ― 罪とは何か
11/26-27　黙想会(東村山)
12/02　恵みとゆるし― 神の憐れみを受ける
12/09　愛の心― キリスト教の本質
12/16 隣人愛― 他人の内にイエスに出会う
12/17　クリスマス・パーティ(16時30分マリア中聖堂[予定]、18時岐部ホール4階)
12/23　クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)

01/06　希望を持つ勇気― 未来に向かって歩む
01/13　霊の動き― 福音による生き方
01/20　聖書と教会― 信仰の基盤となる言葉
01/27　秘跡と教会生活― 毎日を養う信仰

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座　2011年
日　時　　第1・3・5火曜日
　　18時45分～20時30分

根本的態度
10/04　共同存在―― 共通善・正義・奉仕
10/18　個人の道――自己の課題の探究と聖霊の導き

日常生活
11/01 対人関係と協力―― 恵みである他者
11/15 身体と生命―― 性と倫理
11/26-27 黙想会(東村山)
11/29 家庭と独身生活―― 与えられた招きの発見
12/06 仕事と余暇――能力の活性化と人生の実り
12/17 クリスマスのミサとパーティ
(16時30分マリア聖堂[予定]、18時岐部ホール4階、要申し込み)
12/20 困難と苦しみ―― 謙遜な自己奉献と神への信頼
12/23 ミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)
01/17 教会生活とミサ―― キリストの体の神秘
01/31 秘跡の恵み―― たえざる回心とキリストのいのちの深まり

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス

電話　03－3238－5124(直通)
　　－5111(伝言)
Fax　03－3238－5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

10月 8日（土）
11月12日（土）
12月 3日（土）

講話　伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費　200円

余震などの影響で、急遽中止になる事も考えられます。参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177－0044
練馬区上石神井4－32－35
TEL（03）・3594・2247
Fax（03）・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
http://www.ndv-jp.org/

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ（いのちの聖母会）は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉献を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

「来て、見なさい」

「イエスとの関わり」

—主よ、私の道はどこに—

祈りと分かち合い

テーマ：イエスの癒し　9/4(日)
：イエスの許し　10/9(日)
：私の委ね　11/13(日)
：私の選び　2012年1/29(日)

時間：14:00～17:00　＊ミサはありません。

対象：自分の道を探している
35歳までの独身女性

場所：マリアの御心会　(JR信濃町下車3分)

会費：各回500円

担当：マリアの御心会会員

申込み：電話03-3351-0297　締切り2日前

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地:　〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3−1
Tel:　077-579-7580
Fax:　077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交 通:　JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日 程:

A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

① 了
② 了
③ 了
④ 了
⑤ 了
⑥ 10月 19 日 (水) ～ 10月 27日 (木)
⑦ 11月 14日 (月) ～ 11月22日 (火)
⑧ 11年12月27日 (火) ～12年1月 4日 (水) 予定

B. 祈りの体験:週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 了
② 了
③ 了
④ 了
⑤ 了
⑥ 了
⑦ 12月 2日 (金) ～ 12月4日 (日)

C. 講話 黙想(奉献生活者のため)
了

◎ 対 象: 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者: 菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)
その他　若干名

◎ 申込み:　1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他: 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と7月30日～8月12日を除きます。)

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

＊年間購読のご案内＊

来年の１月から 12 月までの『霊性センターニュース』
一年間の購読のお申し込みを受け付けいたします。
年間購読の場合の献金は、2500 円程度をお願い致します。
これには 11 回分の送料（8 月休刊）が含まれます。

申込受付期限：12 月 20 日まで

来年１月以降のお申し込みは、
翌月から 12 月までのお申し込みとなります。
（例：１月申込の場合は、２月号～12 月号）
この場合の献金については、こちらからお知らせ致します。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等をご記入の上、
郵送か下記の e-mail でお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

《e-mail でのお申込み》
tokyo@carmel-monastery.jp

＊何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。
Tel:　０３－３７０４－２１７１
Fax:　０３－３７０４－１７６４

『霊性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×２２０円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

＊献金される方は、下記の口座へお振り込みください＊

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０

加入者名：　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

８月末、管首相から野田首相へと政権は、政党間ではなく、民主党内でバトンタッチされた。それにしても皆、短命である。もう大分前から、国際会議のため外国に行くと、何人もの人から「日本の首相はよく変わるので、名前が覚えられない」とからかわれる。そのたびに、思わず「私もそうだ」と叫びたくなる。

この現象は、今の日本社会を反映しているように思われる。相手のミスをあげつらい、足を引っ張り合うのは、世界共通であろうが、ここに日本人独特のメンタリティー、完全主義や繊細さが加わり、枝葉末節、「重箱の隅をつつく」ようなことが、日常茶飯となっている。派閥闘争が際限なく繰り返されれば、国は滅ぶ。イエスさまの言葉が想い起される。**「どんな国でも内輪で争えば、荒れ果ててしまい、どんな町でも家でも、内輪で争えば成り立って行かない」**（マタ 12：25）。

私は前原氏の支持者でも何でもないが、彼が外務大臣を降りた時の、イタリアの新聞の見出し。「日本の大臣、上着の上に落ちたわずかなほこり（ふけ？）のため首となる」。　（Ｐ．九里）

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「11 月号」製本日　　１０月２５日（火）　上野毛教会信徒会館ホール１階
午後１時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL　03・3704・2171